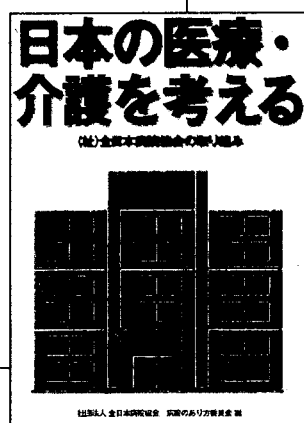
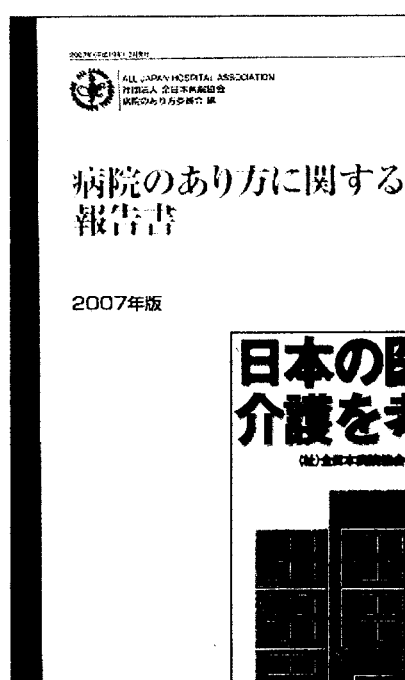


# 全日病の主張と取組み

23

## 病院のあり方に関する報告書 2007年版



### 第3章 医療提供のあり方と診療報酬

エ) 医師と看護師の需給状況と今後の対応  
(b) 看護師の需給状況と今後の対応  
(前略)

良質な医療の確保に看護職員の確保は不可欠である。看護師不足に対する取り組みとしては、潜在看護師の掘り起こしや外国人看護師の積極的な採用が直近の解決策として検討されるべきである。

医療の質確保のために需給を含めた将来像を提示することは、当該職能団体の基本的な役割である。全日病をはじめとする医療関係団体は、国民にこの現状を分かりやすく説明し、医療の質と安全確保のために、より一層の看護師養成が必要であることを訴えなければならない。

24

# 看護職員の需給に関するアンケート

四病院団体協議会 2005.11

全国的にまだ看護師の必要数は満たされていないとはいえ、全国的には、ほぼ現行看護師数の10%～15%増が必要であることが判明した。

看護師の不足数の地域格差も著しく「看護師の絶対数の不足」を訴える地域が政令指定都市以外では39.8%あったことは注目に価すると思われる。また准看護師の必要性もそれに比例して政令指定都市以外では、まだ不足地域があることが判明した。ただ看護師数が満たされていないために生じている「必要性」である可能性もあり注意を要すると思われる。

補充が困難な理由の2位は「賃金」が原因となったが、これは国公立病院の賃金体系をとり得る民間病院が少なく、また「労働条件」の中には完全週休2日制への移行が困難、退職金の支払い率の問題等が含まれていると考えられ、公私格差の問題が少なからず影響していると推察された。

25

## 全日本病院協会 平成21年度 主な研修事業

- 医療機関トップマネジメント研修
- 病院事務長研修コース
- 看護部門長研修コース
- 個人情報管理・担当責任者養成  
Basic Course/Advanced Course
- 医療安全管理者養成課程講習会
- 臨床研修指導医講習会
- 後期高齢者診療に係る研修(ワークショップ)
- 医師事務作業補助者研修
- 特定保健指導専門研修(食生活改善指導)
- 特定保健指導実施者育成研修コース(基礎)
- 特定保健指導アドバンス研修
- 機能評価受審支援セミナー

1単位を2泊3日とし、2単位を取得することで、終了証



26



第51回  
全日本病院学会  
参加人員: 1,800人  
一般演題: 334題

学会主要プログラム

- 特別講演Ⅰ 日本医師会会長
- 特別講演Ⅱ 厚生労働省 医政局
- シンポジウムⅠ「医療崩壊」
- 人間ドック委員会企画  
第1部「人間ドックオプション検査について」  
第2部「特定保健指導のあり方について」
- 病院機能評価委員会企画  
「いかにして機能評価認定をかくとくするか」
- 医療従事者委員会企画  
「職員に選ばれる病院づくり」
- 病院のあり方委員会  
「病院における各職種(医師・看護と介護)の業務範囲のあり方と役割分担について」
- シンポジウムⅡ 「医療従事者不足」
- 特別講演Ⅲ 厚生労働省 保険局
- 特別講演Ⅳ 市民公開講座
- 広報委員会企画ヤングフォーラム  
「病院の永続性について」
- 医療の質向上委員会企画  
シンポジウム「臨床指標を用いた医療の質向上」  
RCA演習「病院における医療安全」

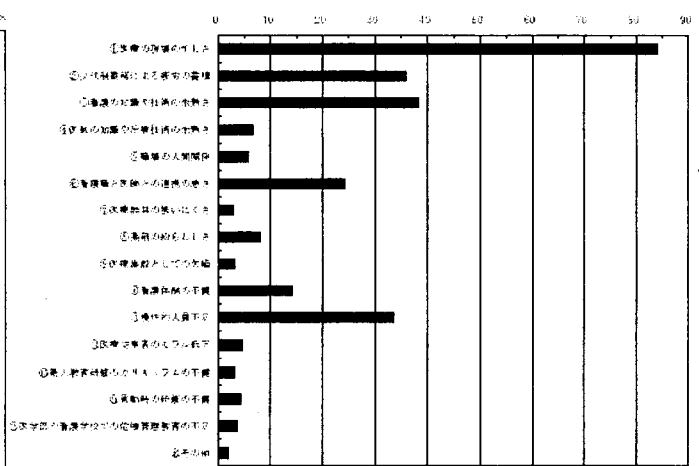
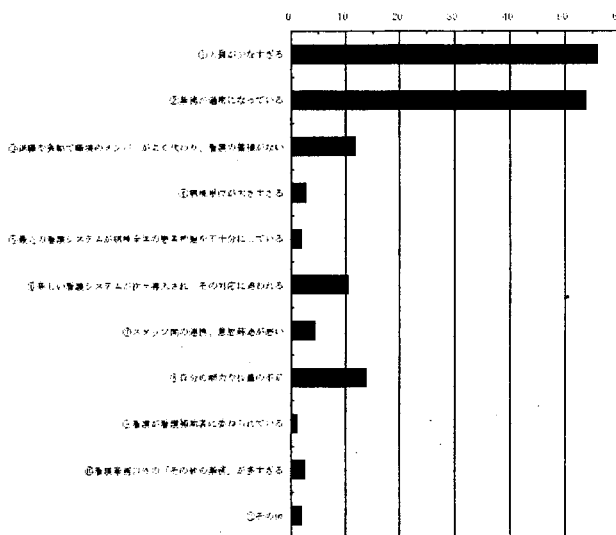
27

看護職員の労働実態調査 集計結果

2006年1月20日 日本医療労働組合連合会より  
約3万1千名の集約、有効回答は看護職員29,058名分

十分な看護の提供ができていない理由(2つまで選択)

医療事故が続発している原因(3つまで選択)



## 7:1、10:1の病棟における看護補助者の具体的な業務内容、 実際の診療現場における看護補助者の活用について

日本病院団体協議会

入院基本料7対1および10対1の届出を受理されている多くの病院では、看護師業務の負担軽減、医療安全管理の推進、医療の質の向上を目的として看護補助者を配置している。

看護補助者の業務は医療機関により多少の差異はあるが、おおよそ下記のとおりである。

### 1)生活環境にかかわる業務

(1)病床および病床周辺の清潔・整頓、(2)病室環境の調整(温度、湿度、採光、換気など)、(3)リネン類の管理

### 2)日常生活にかかわる業務

(1)身体の清潔に関する世話、(2)排泄に関する世話、(3)食事に関する世話、(4)安全・安楽に関する世話、(5)運動・移動に関する世話

### 3)診療にかかわる周辺業務

(1)検査・処置等に必要な依頼箋・伝票類の準備と結果報告の整備、(2)診療に必要な書類(台帳、カルテ、その他)の整備・補充、(3)検査・処置に必要な機械・器具等の準備と後片づけ、(4)診療材料等の補充・整理、(5)入退院・転出入に関する世話

29

加速度的な高齢化に伴い、特に上記「2)日常生活にかかわる業務」を中心とした「療養上の世話に関する業務」が増大している。

また、入院基本料7対1および10対1の病棟における総看護提供時間に占める療養上の世話に関する提供時間は下記のように報告されている。

総看護提供時間と大分類別看護提供時間(平均値:分)

	総看護提供時間	療養上の世話	治療・処置に伴う看護	機能訓練	看護管理
7対1(N=419)	265.11	208.01	48.63	4.05	4.42
10対1(N=147)	204.45	160.62	35.91	4.38	3.54

上の表に示されているとおり、総看護提供時間に占める療養上の世話に関する提供時間は、おおよそ8割弱である。

入院基本料7対1および10対1の病棟においても療養上の世話に関する業務比率が高く、その業務を看護師だけに負わせるのは負担が大きすぎる。

7対1、10対1の病棟においても加速する高齢化により、今後も増え続ける日常生活にかかわる業務(身体の清潔に関する世話、排泄に関する世話、食事に関する世話、安全・安楽に関する世話、運動・移動に関する世話)については、看護補助者を中心とした業務体制の確立が必須である。

30

また、高度化する医療安全や患者のニーズに対応するため、これら看護補助業務については、より専門性の高い職種の協力も、今後は必要不可欠となる。

看護補助者の配置実態について緊急に全日本病院協会ですンプル調査を行った。

区分	病棟数	入院患者数	正・准看護師数	補助者人数	補助者／正・准看護師	100床あたり補助者人数
7対1	14	482人	348.2人	78.6人	22.5%	16.3人
10対1	2	53人	34.5人	10.0人	28.9%	18.8人

※平成21年8月実施 東京、神奈川、徳島、宮崎より医療機関を抽出

上記のように、ほぼ看護補助加算1に相当する配置実態が認められた。

また、サンプル調査対象の医療機関では中医協調査項目中の「療養上の世話」について、看護師の監視下、ほぼ半数程度の業務を看護補助者が単独で行っている調査結果も得られた。

実態として7対1、および10対1の病棟においても多数の看護補助者の配置は必須であり、看護補助者が単独で行う業務も多数認められた。

もはや7対1、および10対1の病棟においても看護師のみの病棟運営は不可能な状況であり、入院基本料の区分の別にかかわらず看護補助加算を認めるべきである。

31

## とある地方の話・・・

人口100万・・・財政規模など多くが国の1/100

# 石川県医師会による調査サマリーより 2009.1

- 有効回答率は病院71%、有床診療所50%、無床診療所51%、訪問看護ステーション64%、介護保険施設69%であった。
- 看護配置に関しては病院の32.1%、有床診療所の16.3%が上げたいと希望している。
- 3年前と比べて看護師を増員した施設は病院で61.6%と高く、有床診療所で18.2%、無床診療所で15.2%、訪問看護ステーションで25%、介護保険施設で33.8%であった。また准看護師では訪問看護ステーションを除くいずれの施設においても減員が増員を上回った。
- 看護師で、病院の41.0%、有床診療所の35.7%、無床診療所の20.6%、訪問看護ステーションの48.5%、介護保険施設37.5%が「確保できていない」とし、さらに「時々不足している」を含めると、それぞれ実に73.1%、52.4%、43.0%、78.8%、55.6%となり、無床診療所以外で半数以上の施設、特に病院と訪問看護ステーションで不足感が著しかった。さらに病院で医療圏別に見ると、能登北部で80%、能登中部で50%、石川中央で35.7%、南加賀で36.7%の病院が「できていない」とし、能登における看護師不足が深刻化している。
- 准看護師では、病院の36.8%、有床診療所の35.7%、無床診療所の16.1%、訪問看護ステーションの20.0%、介護保険施設29.7%が「確保できていない」とし、看護師に比べて低かった。
- 配置基準を上げたい希望を含めた補充希望者数は実に看護師720人、准看護師183人であった。平成19年3月の前回調査では病院、診療所のための調査であったので、同じ対象で比較すると前回の看護師希望525人に対して今回は629人、前回の准看護師希望208人に対して今回146人と看護師需要の増大が著しく准看護師需要はやや減少していた。看護師と准看護師需要を合わせた看護職員の需要は、前回733人に対して、今回の調査では775人であった。さらに、今回の訪問看護ステーション、介護保険施設を加えると看護職員の需要は903人の補充希望であった。
- どの施設においても採用が困難であると回答し、その理由として「地域での絶対数の不足」を1番にあげている。
- 看護師の平均年齢は前回調査に比べて高年齢化し40歳代がピークとなった。また、准看護師及び能登地区の病院における看護師の高年齢化が目立っている。

## ある病院の話・・・

# 能登半島のとある民間病院



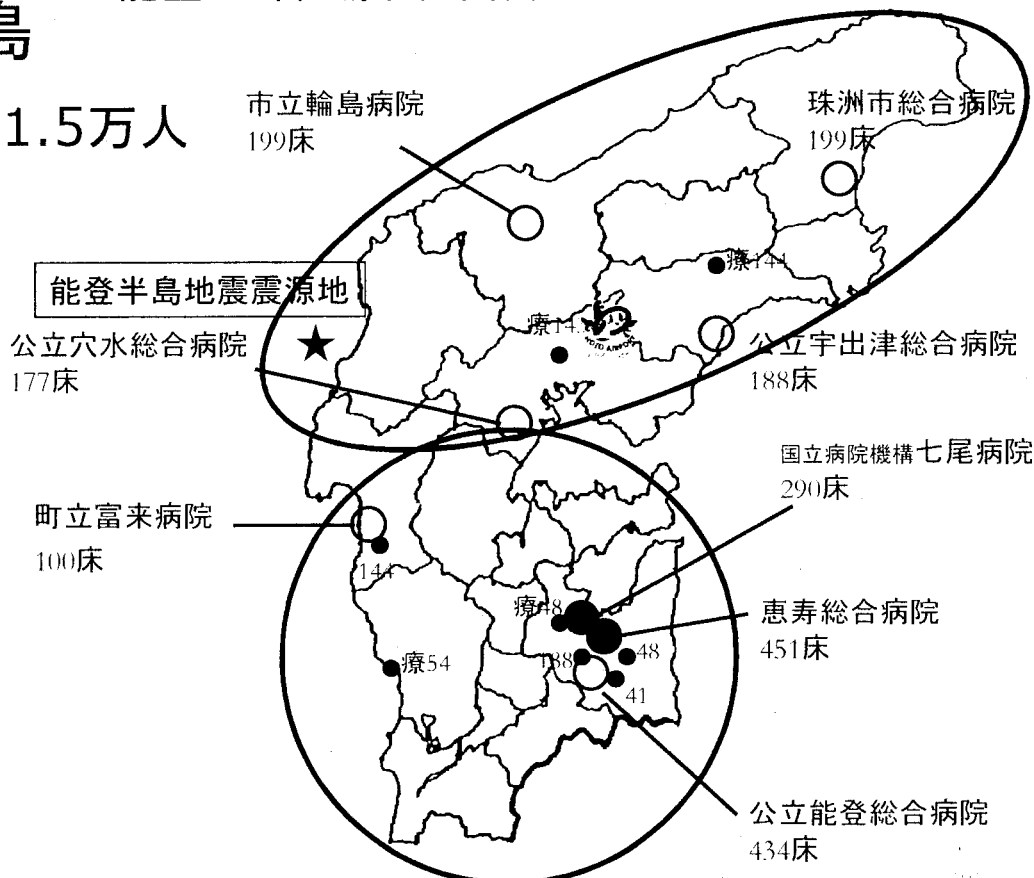
- 451床20診療科の能登地域最大の総合病院。
- DPC対象324床、7:1看護、入院時医学管理料・事務補助加算算定
- 回復期リハビリ病棟47床、障害者病棟80床
- 1994年から医療のIT化を推進

35

## 能登半島

人口:約21.5万人

能登北部医療圏 高齢化率38.5%



- : 国立病院
- : 公立病院
- : 民間病院

高齢化率は  
平成20年10月現在

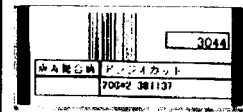
能登中部医療圏 高齢化率29.6%

36

# 診療材料の小包装化

SPD (Supply Processing Distribution)

平成 6年12月～



敬仙会 恵寿総合病院

愛西市JITシステム

3病棟4階

35



特

定価 9,000.00

入り数 1 本

257840日本シャーウッド

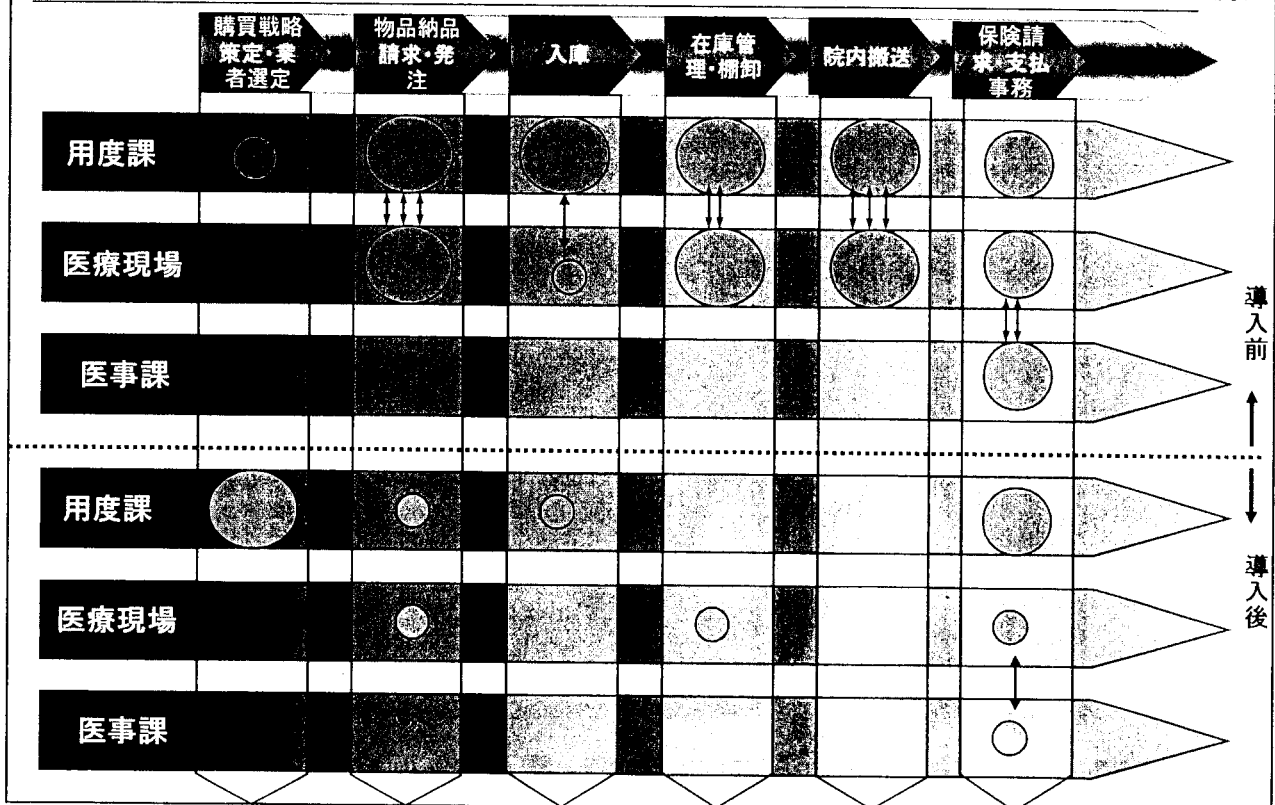
マイクロニードルセルジンガーキット

1916-8GL

図4. 診療材料購買管理プロセス概観 - 施策導入前後

○ 業務量の大小

↔ コミュニケーションの流れ





# 安全対策から効率化

平成15年2月～



実施確認 (srvBUketuke) <1.0.161> <利用者神野 正博> [閉] x  
 ファイル(F) 表示条件(O) 拡張子(Q) 日付変更(D) ヘルプ(H)

平成 15年 7月 10日

分類 [注射] 看護印刷(P) 印刷(P) 最新表示(N) ログオフ(L) 終了(X)

部屋	氏名	分類	実施	実施者	実施日	実施時間	内容・コメント・セット名称
2511	■■■■	点滴	●	高橋 佳子	H150710	00:00	アミノフリード <sup>®</sup> 500mLキット 1キット、フリンペラン注射液 10mg 2ml 1管、点滴
		注射	●	大筆 恵美	H150710	06:00	グアイノ注 500ml【D】 1瓶、ネラミン・スリヒ <sup>®</sup> -液(静注用) 10ml 1管、点滴
		点滴	○				アミノフリード <sup>®</sup> 500mLキット 1キット、フリンペラン注射液 10mg 2ml 1管、点滴
		点滴	○				アミノフリード <sup>®</sup> 500mLキット 1キット、点滴

2000.6～

## コールセンター (けいじゅサービスセンター)



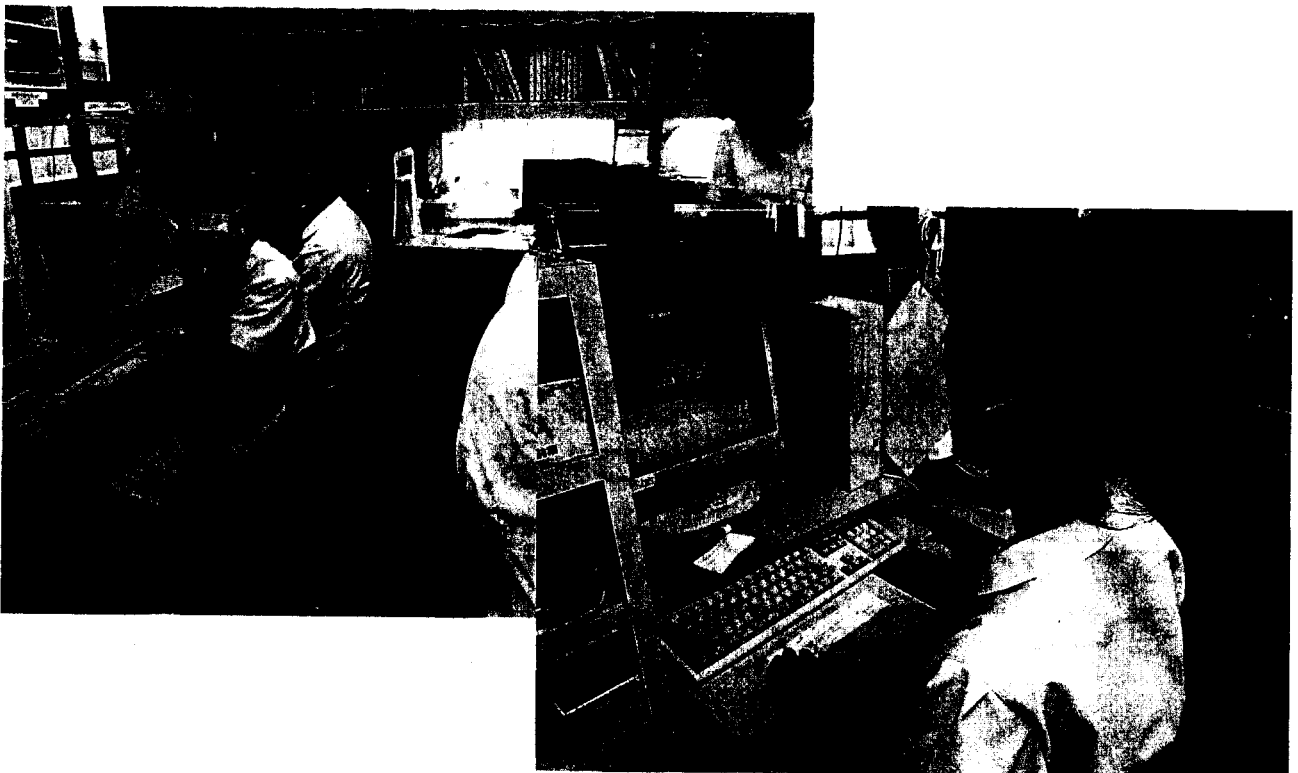
多施設、多制度にわたる患者情報・患者サービスの一元管理

# コールセンターの役割

- 御用聞き
  - 物販支援
  - 業務改善
    - － アナログ情報とデジタル情報の橋渡し
      - 患者 ⇔ 病院システム
      - 職員 ⇔ 病院システム
      - 紹介医 ⇔ 病院システム
      - 連携機関 ⇔ 病院システム
- \* 脳卒中地域連携クリティカルパス

41

# 看護クラークの導入



# 看護師の新しいスタイル

- クリニカルスペシャリストとは？

医師に最も近い患者サービスのスペシャリスト



## クリニカルスペシャリストの業務内容

- 治療前後の患者情報を的確に分析し、必要な情報を集約して医師にアドバイス
- 医師の補助的な立場として、入院から退院の患者へのICを含めてフォローアップ
- 退院後の服薬管理・受診予約・検査予約等の患者のアフターフォロー及び患者管理
- サテライトクリニックに医師と共に同行し、患者のビフォア & アフターサービス

# けいじゅ概要

- 451床の能登地域最大の総合病院です。
  - DPC対象324床、7:1看護、入院時医学管理料・事務補助加算算定
  - 回復期リハビリ病棟47床、障害者病棟80床
  - 1,171床の医療～介護～福祉複合体「けいじゅヘルスケアシステム」の基幹病院です
  - 内視鏡件数年間8,500件、心臓カテーテル年間1,100件、手術件数3,100件と県内有数
- 
- 全国に拡がった診療材料、薬剤のIT管理の発祥の地です(1994～)
  - 病院情報システム(1997～)、広域患者情報システム(1998～)、インターネット電子カルテ閲覧システム(2004～)開発運用
  - 医療～介護の日本初のコールセンター設置(2000～)
  - 病院内24時間コンビニエンスストア日本初の誘致(2000)
  - HACCAP対応セントラルキッチン設立(2003)
  - 脳卒中地域連携クリティカルパス石川県モデル病院(2007～)
  - 能登北部地区の診療所へ医師の無償派遣(2007～)
  - 地域振興のために独自ブランド商品、ヘルスケアツーリズム開発(2007～)
  - アメリカ病院・大学との連携によるハートセンター(2007～)、家庭医療学センター(2008～)、家庭医療クリニック(2009～)
  - 全国で9番目の社会医療法人認定(2008.11～名称変更)
  - 地域の高齢者に対して宅配食サービス開始(2009～)
  - 遠隔放射線治療計画システム(2009～)